SAMPLE　試読用　サンプル

荒縄工房

あんぷらぐど著

縄味２

ＳＭ小説

SAMPLE　試読用　サンプル

SM小説

縄味2

あんぷらぐど著

荒縄工房

SAMPLE　試読用　サンプル

SAMPLE　試読用　サンプル

本作品はすべてフィクションであり、実在する人物・地名・団体とは一切関係ありません。また、特定の個人、団体、宗教、人種、性別などを誹謗中傷する意図はありません。

あんぷらぐど

ＳＭ雑誌に「仲ゆうじ」名でＳＭ小説を執筆して作家活動をスタート。その後、作家活動は休止し、編集の仕事に携わる。ネットでは「ふにゃふにゃ」「あんぷらぐど」名でＳＭ小説を執筆。独自の自虐的ＳＭ、一人称による告白形式の作品、伝奇ＳＭ小説などを発表し続けている。東京在住。

目次

これまで　８
主な登場人物　１０
キス　１２
トリプル　２５
乳房責め　３８
夫の許可　４９
貞操　６８
仕事　９６
野外撮影会　１１０
ポルチオ　１２８
奉仕活動　１４３

覚醒　１５７
イベント　１７９
みんなの目の前で　１８９
落ちた世界　２０１
電流の快楽　２１９
熱湯責め　２４１
夫婦　２６１
シェリー　２８０
妻失格　２９０
受精　３００
終わりのはじまり　３１０
檻の中　３２１

引っ越し　３３０
練習　３４２
立場　３５２
終幕　３６５
奥付　３９６

SAMPLE　試読用　サンプル

これまで

菜緒美は結婚していたが、縄に魅せられ「なわ」というハンドルネームでネットで発言をしていた。その密かな楽しみから、ふと銀座で開かれていた緊縛写真の展覧会に立ち寄る。そこでカメラマンの吹雪に声をかけられる。

学生時代に読者モデルとして、その後はカタログのモデルや展示会の仕事をしていたこともあった。夫ともある展示会で知り合ったのだ。

自分が縛られている姿を思い描き、スタジオを見学。縄師の深川先生、その弟子で日本画家の赤岩に出会う。顔を出さない、着衣での緊縛という条件で、テスト的

な撮影を承諾。そのとき菜緒美は衝撃的なエクスタシーを感じてしまう。吹雪は思わずその表情を撮影。発表はしないと約束するが、その写真がネットに流出してしまう。

モデルの絵夢奴が流したという。

読者モデル時代からの友人のモデル・シェリーたちから「見損なった」となじられる。

さらに義理の兄である有森金男からも脅され、野外調教の果てに、縄奴隷「なわみ」として、デビューをさせられることに……。

主な登場人物

私　有森菜緒美（なおみ）　二十七歳　大学時代から読者モデルの経験あり。大手メーカーに勤める夫とは展示会の仕事で知り合う。都内近郊のマンションに住む。

有森哲次　三十一歳　菜緒美の夫。大手メーカー勤務。

有森金男　三十三歳　哲次の兄。バイク事故によって下半身に傷が残っている。

吹雪清玄　五十歳　カメラマン。緊縛写真で知られている。商業写真の仕事もしている。

深川明　六十二歳　縄師。

赤岩陽介　三十五歳　深川の弟子を自認するが、本業は日本画家。

喜美江　三十八歳　ホステス。元女優。緊縛モデル。

絵夢奴（えむど）　二十二歳　緊縛モデル。

シェリー（反町美代）　二十五歳。ファッションモデル。菜緒美を姉貴と慕う読者モデル時代からの友人。

SAMPLE　試読用　サンプル

キス

「えー、やだー」
絵夢奴は、キスをしろと言われて、笑います。
しかし、吹雪さんの勢いに押されたのでしょう。
わたしの唇に重ねてきました……。
「あぐぅぅぅ」
舌で口を舐められました。
「なわみっておいしいわ」
やっと下ろされて、すべての縄が体から離れたあと、放心状態でスポーツドリンクを飲んでいると、「おはようございます」と女の声がしました。

喜美江さんでした。着替えていた絵夢奴が駆け寄り友人のように話しています。
彼女の撮影を見学したのはずいぶんと昔に思えます。
「二人とも、ちょっと来てくれないかな」
吹雪さんたちは二人を控え室に連れて行きました。
わたし抜きで打ち合わせをするのです。
その間、わたしは義兄(あに)の金男と一緒に待っていました。
「いい写真が撮れているよ」
金男が唐突に言いました。
「見たことのない表情だったね」
それはそうです。俳優でもない限り、あらゆる表情

を人に見せることはないのです。まして、こんな醜い顔……。作品は見ていませんが、きっとそうに決まっています。つらく、苦しいばかりなのですから。

「なわみは、きつくすればするほど、いい顔になるね」

返事なんてできない。したくありません。

「おっと、傷口が開いてるね」

有刺鉄線で裂けたお尻、腰のあたりに、新たな血が滲んでいました。

彼がティッシュで拭こうとするので、わたしは思わずそれを奪い取り、自分で拭きました。ピリッと痛みが走りました。

わたし、なにをしてるんだろう。どうなっちゃうんだろう。

なにをされるんだろう。

ここに今日、やってきたときの恐怖とは違うのです。不安というのでもありません。なにかされることは決まっていて、絵夢奴に加えて喜美江さんまで来たのですから、もっと激しいことになるのです。

がやがやと笑いながら戻って来た吹雪さんたち。

喜美江さんはきっちりと地味な着物姿。絵夢奴は全裸です。

「じゃ、さっそく始めましょう」

吹雪さんが言い、みんなが動きはじめます。深川先

生と赤岩が縄を持ってやってきて、その束を畳にどさっと置きました。これまで見たことがないほどの量です。

「じゃあ、なわみから縛ろう」

文句は言えません。二人に身を委ねるしかないのです。物のように。

「体からいきます」

かろうじて赤岩が教えてくれますが、それも金男に言っているのです。

「おもしろいですね」

義兄(あに)は興奮しているようです。

首に何重にも縄が巻かれ、髪もまとめられてしまい

ます。腕を体の横に沿って伸ばします。右の腕、胴、左の腕と縄が巻きついていきます。乳房の上下も。

ぐいっ、ぐいっと強く締め付けられていき、肌に深く食い込みます。

さらに背中に別の縄が編み込まれます。首から胴、腕までギシッときつく絞り上げられていくのです。呼吸も苦しいほどです。

太腿の付け根と手首をくっつけて縛られます。足も左右を梱包するようにびっちりと。

畳に仰向けにされ、身動きできません。ぐるぐる巻きですが、左右対称に編まれた縄は美しく、我が物顔に体を支配しています。

「さて、仕上げだ」
赤岩は細い十センチぐらいの縄の先端にチューブから透明な液体をつけました。
「目をつぶって」
閉じたまぶたに、その縄の先端が押しつけられました。数秒のことです。
縄が引かれると、まぶたが強制的に開いてしまいます。
「瞬間接着剤だ。安心していいよ、溶剤ですぐ取れるからね」
まぶたを引き上げる細縄を額におき、ヘアバンドのように別の縄を頭に巻き付けます。まぶたを閉じるこ

とができません。
「口をあけろ」
今度は同じように細い縄ですが、一メートルぐらいあります。
「ゆっくり呼吸するんだ」
縄の先端が左の鼻孔に入れられました。
「ぐはっ」
涙が出ます。
ぐいぐいと奥へ押し込んできます。
「くしゃみや咳をしてもいいぞ」
「あひぃぃぃ」
ガハガハと苦しみながら、縄が喉に達するのがわか

ります。
「こっちもだ」
右の鼻孔からも縄の先端が入れられます。
苦しさと恥ずかしさ。こんなことをされるモデルはおそらくいないでしょう。
「いいぞ」
ペンライトで口の中をのぞく赤岩が、大きなピンセットを口の中に入れてきました。
「ぐぅひぃ！」
それで鼻から喉に出て来た縄の先をつまみ、口から引きずり出したのです。敏感な粘膜を擦りあげていく縄のおぞましい感触。

「ふゅぇぇぇ」
目を閉じることもできず、自分の体に暴虐を加える赤岩を、涙越しに見続けることになります。
とてもうれしそうに作業をしています。背後の金男も興味深げです。
深川先生は足元の縄をさらに丁寧に縛っています。
口から二つの縄尻が引き出されました。赤岩はそれを固く結びました。
「わかるな、どうなるか」
縄を鼻孔側から引っ張ると、喉の奥に結び目があたりました。
「木で鼻をくくる、なんて表現があるけど、本当に鼻

をくくってやったわけだ」
ぐいっと引っ張られると、とっても苦しいのです。
「あぁぁぁぁ」
今度は開いたままの口に縄がかけられます。猿ぐつわのように何重もの縄を噛まされるのです。
「今回のテーマは、新巻(あらまき)だよ。新巻鮭みたいにね。新巻というのは葦(あし)や藁(わら)で魚を巻いたもののことなんだけどね」
鼻の縄を動かされるとゲホゲホとむせます。鼻汁や涎が飛びますが、赤岩たちはおもしろがっているのです。
そこに絵夢奴が裸でやってきました。

鼻縄を赤岩から受け取ると、またがってきました。
「かわいいお馬ちゃん。鼻はつらいでしょ？」
笑う声が頭の上で響きます。
「奥さん。愛人にいたぶられる気持ちはどう？」
そんなシチュエーションなのでしょう。絵夢奴の演技は下手くそですが、スチル写真なので彼女がいい表情をすればいいのです。
「ふふふ、いい体」
抱きつかれ、体をすりつけてきます。
縄だらけの体ですが、その縄と縄の間から飛び出した部分を、彼女は全身で味わうように、すりつけてくるのです。

「いいわあ、気持ちいい。この上で寝たいわあ」
思いきり体重をかけてきました。息ができません。
「欲しいなあ、これ」
家畜、いえ家具のように扱われています。

トリプル

「ご主人はあなたよりわたしが好きだって。あなた、捨てられたらどうする？　あたしが拾ってあげようか」

架空のご主人様の前でレズＳＭを繰り広げる設定のようです。

絵夢奴はそれらしいセリフを口にして気持ちを高めます。彼女は愛人。わたしは妻の役です。愛人に責められる妻。それはいまのリアルな境遇と重なってゾクゾクしてきます。

わたしは、憎たらしい絵夢奴に舐められ、触られ、

いじられるだけの存在。
「子供ができないっていうけど、すること、してないんじゃない？　あたしがいっぱいもらっちゃっているからかな」
彼女の体重、肌触り、においを感じながら、その下手な演技がかえって心に突き刺さってきます。
もしここにわたしの主人がいたら……。彼はなんと言うでしょう。
「あなたのような変態よりも、あたしのことが好きなんだって。どうするの、変態妻さん」
見たくなくても彼女を見なくてはなりません。
シャッターの音がしていますが、撮影を意識できま

せん。彼女への嫌悪は増すばかりです。この設定は吹雪さんたちの考えでしょう。でもそれを支えているのは彼女の悪意です。

鼻縄をぐいっと引かれました。粘膜を削るようにきつく食い込んでくるので、ゲホゲホとむせてしまいます。

「おもしろいわ、これ。家畜以下ね」

彼女がわたしの顔をはさむように立っています。

「こうやっても感じるんでしょ。こんなことをあたしみたいな女からされると、悔しくて、みじめで、いっぱい感じてしまうのよね。哀れな生き物だわあ」

鼻が上を向くように縄を引き上げます。抵抗できま

せん。全身をきっちり縛られて、ミイラのようにされているからです。
「喜んでよね。あなたが嫌がることをいっぱいしてあげるから」
絵夢奴はゆっくりとしゃがんできました。
彼女のお尻が大きくなっていきます。視界がほぼすべてお尻になります。
「いい？　愛人のおケツを味わってみない？　屈辱的でしょ」
ぐっと、彼女のお尻が顔の上に乗りました。鼻は性器の下部。口はお尻の穴にくっついています。逃げられません。

そして彼女がお尻を擦りつけてきたのです。
「がああう」
抗議したいのですが、口の中も縄だらけで言葉が出ません。
「ほら、もっと味わいなさいよ」
息ができません。顔をこすり上げられ、唇や鼻で彼女を味わうのです。
「何をしているの」
喜美江が畳の上にやってきました。
「あなたの息子さんの大事な人を虐めてますのよ。こんな変態女、追い出してやりましょうよ」
「確かにきれいな顔と体つきだけど、息子のためにな

らない女だわ。追い出すよりも責め潰す方がよくないかしら？」
喜美江は紙を見ながらセリフを言っています。
動画でもないのに。いえ、もしかしたらビデオを録られているのでしょうか。
「わたしにもやらせて」
着物の裾をまくりあげた喜美江は、絵夢奴にかわってわたしの顔にしゃがみ込みます。
「かっふぅ」
あらがいたくてもできません。
雑巾のように顔を使われています。なされるがままに。

奥付

お読みいただき、ありがとうございました。

二〇一三年十月刊行　二〇一四年七月二版

著作権　あんぷらぐど（荒縄工房）

荒縄工房の情報は下記サイトへ

●ブログ「荒縄工房」

●ホームページ

●荒縄工房　ＳＭ研究室

●今日も上機嫌ってわけないだろ

コメント、メッセージ歓迎。ご意見、ご感想、ご提案など随時、ブログで受付中。